

社会変革が公私の場に必要

入社以来ネットワークの仕事に携わっている。弊社は、お客さまとともに考え、情報通信ベンダーとして新しい技術を製品・サービスとして市場に送り出してきたが、ICT（情報通信技術）は、今では、あらゆるところで人々の生活に浸透するようになった。私は、この「世の中への影響」を体感しながら夢中で自分の仕事をこなしてきた。楽しいことばかりであった。一方で、現在の情報化社会で育つ子供たちは、小学5年生にもなるSNS（ソーシ

凛としていきる

理系女性の挑戦

女性が専門性高め 経験を



ヤル・ネットワーク・サービス）も見事に使いこなす。便利な社会になった半面、文字から知識を得て、文字によるコミュニケーションをして、確かにその知識力は急成長だが「この成長」は大丈夫だろうか、ふと不安がよぎる。今、日本は成長戦略として女性リーダー・技術者を増やすことになりつつある。メテオを通して、警察官・医師・弁護士と「華やかな」女性上司の姿を映し出し、その「夢」を与えている。しかし、女性リーダー・技術者の量的・質的拡大に

アメリカ東海岸 The privileged schoolsへの「期待」（MITにて）

は、日本社会全体の変革が公私の場にまだ必要だと考える。まず、女性幹部の量的拡大ができないのは、「オールドボーイズネットワーク」起因の女性自身の圧倒的な経験不足があるレベル以上の昇格を困難にしている要因と分かっていた。女性自身が専門性やマインドをもっと高めるとともに、企業や学界が意図的に女性に経験を積ませる施策がもっと必要である。

生（の早い時期から子供たちに「自然界での科学の面白さ」や「人間力を育てること」をICT活用と併せて教えることが急務である。21世紀を生き抜くための力は、マッキンゼーの「採用基準」でも知られる「自分で考えて問題を解く力」、「リーダーシップを学ぶ力」を養うことである。

今の子供たちは、2045年に訪れるといわれている科学技術のシンギュラリティ（技術的特異点）の時代を生き抜かなければならない。女性技術者としていきる母親の「思い」を国と学校と連携した「未来の世界の

＜プロフィール＞83年東京理科大学理学部数学科卒、同年富士通入社。コアネットワークからリーダー、基地局、光伝送装置のファームウェア開発に従事、14年研究所へ転向。JWEF個人会員



富士通研究所 システム技術研究所 主席研究員 森田 純恵